

つないでくれた命

新潟県 長岡市立四郎丸小学校 四年

酒井 志央

長岡花火を土手まで家族と見に行った。フェニックス花火がとてもきれいで、みんながはく手をしたりかん声をあげたりしていた。

なぜこんなにもり上がるのだろう。

ジジから、長岡には三回悲しいできごとがあったと聞いた。

一つ目は、ぼしんせんそう。大昔のたたかいで、長岡に住んでいる人達はまきこまれてしまった。この長岡でのたたかいは、北えつせんそうといって、たたかいに負けた長岡はやけど野原になり、たくさんの人がなくなってしまった。

二つ目は、長岡空しゅう。飛行船みたいなばくだんの中から、魚の大ぐんのようなしゅういだんが出てきて、長岡の家につきささった。火がにげている人を丸こげにした。長岡の町は真っ黒な炭になった。

三つ目は、中えつ地しん。道路がわれ、山がくずれ、車が通れなくなった。水やガス、電気が使えなくなり、食事ができなくなったり、お風呂に入れなくなったりした。暑くても寒くてもがまんしなくてはならない日が続いた。家の下じきになって、なくなつた人がいた。くずれてきた土や石につぶされてしまった人もいた。

ぼくは、こんなに何回もひどく、悲しいできごとがあった

なんて知らなかった。

そして、パパからこんな話を聞いた。

「ジジは、お父さんに会ったことがない。」

ジジがお母さんのおなかの中にいる時に、お父さんがそんなで死んでしまったからだ。ぼくはびっくりした。テレビでせんそうのえいぞうを見て、少しは知っていたけど、まさかジジのお父さんがせんそうに行っていたなんて。ジジは、お父さんに会ったことがなく、お母さんとたった二人で生きてきたなんて。ぼくは、むねが苦しくなった。

三じやく玉打ち上げのサイレンが鳴った。このサイレンは空しゅうの時と同じサイレンだったことを知った。フェニックス花火が、地しんの後にのこされた人を元気にする花火だと知った。長岡は、やられてもやられても立ち上がる強くてやる気のある町だと思った。三じやく玉やフェニックス花火でみんながもり上がるのは、この町の思いや願いが花火でつながっているからだと思つた。

ぼくは、家族でこんなにすばらしい花火を見ることができると。ジジやパパ、ママやママが大切につないでくれた命があるからだ。ありがとう。